

# 和紙糸の販売拡大

## ニット製品で需要増加

三備産地の備後燃糸（広島県福山市）では、独自開発の和紙燃糸「備和」の販売が拡大し、今期の売上高に占める自販比率が目標としていた30%を超え35%以上になり

進む。製品を中心に市場開拓が進む。

産の海外移転や市況の悪化などで国内での燃糸の需要が減るなか、2009年に和紙事業部を立ち上げ、和紙を使った燃糸の自販を強化。スリット

同社は三備産地のなかでも大手の燃糸企業。委託加工が中心だったが、生

産の海外移転や市況の悪化などで国内での燃糸の需要が減るなか、2009年に和紙事業部を立ち上げ、和紙を使った燃糸の自販を強化。スリットした和紙を燃って糸にするもので、綿やポリエステルなどと複合し、綿番手で27番手、毛番手で45番手程度の細い糸も生産できる。

工が中心だったが、生

産の海外移転や市況の悪化などで国内での燃糸の需要が減るなか、2009年に和紙事業部を立ち上げ、和紙を使った燃糸の自販を強化。スリットした和紙を燃って糸にするもので、綿やポリエステルなどと複合し、綿番手で27番手、毛番手で45番手程度の細い糸も生産できる。

べ良く、インナー用途に最適

これまで和紙糸は、織布や編み地にするのが難しい面があったが、13年には製品ビジネスにも挑戦するなど、和紙糸を使う生産者の立場になって考えた「織りやすい、編みやすい糸の供給に努めてきた」(同)ことで、様々なアイテムへの採用が増

加。インナーやゴルフウェア、手袋、ジーンズ、子供服、婦人服などの用途で使われ、認知度も高まってきた。

から春夏物への採用が多い。昨年末には和紙糸専門のホームページ (<http://binnen-washi.co.jp>) を立ち上げ、ブランドを備和にして販

促を強化。サイトには和紙糸の特性や、生産工程、ユーザーの声など、写真や動画を使って分かりやすく紹介する。光成社長は「一般消費者にも知ってもらえるように、より品質を進化させていきたい」と話す。

1キ当り2600円程度と高価だが、複合することでコストを抑えることができ、和紙特有のシャリ感や、きれいな表面感を持つ生地

のホームページ (<http://binnen-washi.co.jp>) を立ち上げ、ブランドを備和にして販

増設するスペースがないことから、従業員を増やし、交代制による増産体制も検討する。

